

春先の水稲栽培のポイント!



農学博士

～育苗管理と本田準備、移植後の水管理～

群馬県利根沼田農業事務所

気象庁発表の令和6年の暖候期予報(2月20日発表:6月～8月)では、「暖かい空気に覆われやすいため、夏の気温は高い。梅雨時期と夏の降水量は、ほぼ平年並の見込み。平均気温は高い確率が60%」となっています。気象予報を参考にして、準備を進めましょう。今回は春先の水稲栽培のポイントを紹介합니다。

1 育苗管理

「苗半作」と言われるように、健全な苗を育てるためには温度管理が重要です。育苗期間の高温は徒長苗や病害の発生原因となります。表を参考に育苗期間中の温度や換気に注意して、健全な苗づくりを心がけましょう。

緑化は2～4日かけて行い、昼間20～25℃、夜間は10℃以上とします。

硬化期は、特に30℃以上にならないようにします。育苗前半のかん水は午前中の早い時間にたっぷり行います。後半は、乾燥している場合のみ午後3時頃までに2回目のかん水を行います。(表参照)

表 育苗期間中の管理の目安

	緑化期	硬化期	
		平床育苗	プール育苗
期間	出芽後2～4日	緑化後～田植え(約20～25日)	
葉齢	0.5～1.0葉	1.0～2.0葉	
温度管理	日中20～25℃	気温日中15～20℃	水温日中25℃以下
	夜間10℃以上	気温夜間10～15℃	水温夜間10～25℃以下
水管理	1日1回午前中にかん水	前半:1日1回午前中にたっぷりかん水 後半:乾いたら15時頃までに2回目	1回目入水:培土表面まで 2回目入水:培土が隠れるまで

- 高温時は過剰な被覆で温度が上がり過ぎないように注意します。(30℃以上にしない)
- 夜間低温が予想される場合は、日が落ちる前に保温資材で被覆します。
- 2葉目が出始めたら過保護にしないよう心がける。

ハウス等の換気は前半は日中に行い、夜間はハウスを閉めます。後半は外気に慣らし徒長を防ぐため、終日開けておきます。ただし、極端な低温や強風時は閉めます。草丈12cm、葉齢2.0葉での田植えが目標です。

2 本田の準備

漏水のない水田は水管理のために重要です。畦畔からの漏水を防ぐため畦塗りはしっかりと行います。畦波板を使う場合はできるだけ深く設置し、漏水を防ぎます。

代かき作業には、①碎土や土壌の均平化、②刈株や残さの埋没、③漏水防止、④肥料分布の均一化、⑤雑草の発生抑制など、様々な効果があります。代かき時に水の量が多いと均平作業が難しいため、田面の高いところが出る程度の水位で行います。



写真1 代かき

3 田植え時の注意点

田植え後、根の活着水温は13℃以上が望ましいです。平均気温15℃以上を目安に田植えをしましょう。早すぎると低温によって根の活着が遅れ、茎葉が白化症状を示し初期生育が極端に抑制される場合があります。

4 水管理

移植直後は「深水管理」が基本です。深水にすることで、①植え傷みの回復を早める、②除草剤の効果を高める、③低温からの苗の保護などの効果があります。

活着後は「浅水管理」です。水深を2～3cmにして、水温上昇を図り、初期生育の確保と分けつ促進を図ります。かん水は夜間や早朝に行い、昼間は止め水にして水温上昇に努めます。

概ね移植後30～35日を目安に「中干し」を行います。中干しの目安は、落水して土壌表面に小ヒビが入ったら完了です。(写真2)

この時期に長雨等で水が抜けきらないこともありますので、天候に応じて早めに中干しに入りましょう。中干し後は間断かん水に移ります。



写真2 中干し

5 除草剤使用時の注意点

近年は粒剤やジャンボ剤、豆つぶ剤など、様々な種類の除草剤が販売されていますので、必ず農薬ラベルの使用法を確認して使用します。

初中期一発処理剤などの除草剤は、水中に広がった成分が土壌表面に処理層を形成することで効果を発揮します。そのため、除草剤の散布後4～5日間は水尻を止めて湛水状態を保ち、水が必要な場合のみ、ゆっくりと入水してください。散布後7日間は落水やかけ流しは避けて下さい。

6 病虫害防除

近年では、夏場の高温や梅雨時期の日照不足により収量・品質の低下やいもち病、稲こうじ病が散見されています。天候の状況を注視し、病虫害の発生が見られたら早めの防除を行いましょ。

普及指導課農畜産指導係(泉野)

農業技術に関するお問合せ TEL 23-0338